

<p>学生・留学生支援</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p>
<p>keyword</p>	<p>□ 外国人留学生を受入れる日本社会のあり方の研究 □ 留学生と国内出身学生がともに学ぶ異文化理解プログラム</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 留学生相談 ■ 入管法 ■ 異文化適応 ■ 多文化共生 ■ 留学生就職支援 ■ 日本語学習支援 ■ タイ・エコ 	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
	<p>1983年に始まる、いわゆる「留学生10万人計画」は、2003年に留学生数が10万人を超え、数値目標が達成された。しかしながら、同計画は、日本社会の留学生受入れ体制の不備を次々と明らかにするものでもあった。今後の留学生受入れのために日本社会はどのように体制を整備していく必要があるか。</p>
<p>寅野 滋 Shigeru Torano</p>	<p>① 留学生30万人計画 文部科学省・外務省などの6省は2008年に「留学生30万人計画」を策定し、「グローバル戦略」を展開する一貫として、2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指している。これを実現するためには、「留学生10万人計画」進行の過程で未整備の課題に加え、新に整備していくべき課題が浮かび上がってくるものと思われる。例えば、「留学生30万人計画」には、「卒業・修了後の社会の受入れの推進」が掲げられている。これを実現していくためには、日本型就活・採用活動の見直しや、日本企業が外国人を雇用することのメリットを分析・研究して企業にアピールしていくなど、大学のみならず、日本社会として外国人留学生を受け入れるとともに、高度人材として育成していくことについて研究しなくてはならない。</p>
<p>国際センター 講師</p>	<p>② 国内出身学生への教育プログラム 日本で生まれ、日本で育った日本人学生には、海外研修プログラムに参加させるなどして、日本文化を再発見しながら、文化相対主義-多文化理解を促進することが求められている。筆者は2008年以来、日本人学生をタイのバンコク/チェンマイに引率し、タイの協定校に在籍するタイ人学生との交流を進めている。短期研修期間中に生ずる日本人学生の異文化不適應やそれを乗り越えて異文化理解に至る過程についても研究し、海外研修に行く前の事前研修における異文化理解プログラムの開発にも取り組んでいる。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野 ・ 留学生教育・相談指導 ● 略歴 ・ 1980年 東北大学文学部 卒業 (哲学科中国哲学専攻) ・ 1991年3月-1997年9月 財アジア学生文化協会 職員 ・ 1997年10月-2004年2月 東京大学 留学生センター 留学生相談員 ・ 2004年3月-2006年2月 東京大学 留学生センター 助手 ・ 2006年3月 滋賀大学 経済学部 講師 ・ 2006年4月-現在 滋賀大学 国際センター 講師 	<p>さらにまた、留学生と国内出身学生が相互理解を進める教育プログラムを開発することも、重要な課題である。国内出身留学生とは、日本人の学生はもちろんのこととして、「定住者」「永住者」などの在留資格を持ち、さまざまな文化を背景に持つ在日外国人の学生、さらに、日本国籍を持ち、一定期間海外で生活しながら教育を受けてきた帰国子女学生を、総称する呼び方である。これら国内出身学生たちが、留学生とともに、協働でプロジェクトを完成させていくことにより、留学生の異文化理解とともに、国内出身学生の異文化理解も同時に育成されるものと思われる。大学でこれらのトレーニングを受けた留学生及び国内出身学生たちが、日本国内の企業や海外にある日系企業などに就職し、世界を舞台にして活躍できることを期待している。私は、特に、タイ・ベトナム・台湾の日系企業の協力を得て、本学学生のインターシップ・プログラムを開発したいと考えている。</p>